

イギリスの地理教育で身に付けうる「まちづくり力」に関する研究
—GCSE 試験に注目をした考察—

21418014 河面 涼代
指導教員 是澤 紀子 准教授

まちづくり シティズンシップ 市民参加
イギリス 地理 教育

1. 研究の背景と目的

2022 年以降に高等学校教育において、地理総合が必修化されることが文部科学省から発表された¹。改訂後の教育方針として、「持続可能な社会づくりを目指し、環境条件と人間の営みとの関わりに着目して現代の地理的な諸課題を考察する」ことを目的としている。

近年注目されている住民参加型まちづくりでは、ここで謳われている、「環境条件と人間の営みとの関わりに着目」できる知識と、それを使いこなして「現代の地理的な諸課題を考察する」スキルが必要とされている。

こうした知識、スキル、そして主体的な市民となる意識を「シティズンシップ」という独立した科目で義務教育課程で取り扱っているのがイギリスである。移民が多く、革命を通じて市民権を獲得していないイギリスは、市民意識が低い可能性もあるが、シティズンシップ教育の歴史は長く、第二次世界大戦以前からその重要性に着目していた。また、「シティズンシップ」だけではなく、全ての科目を通してシティズンシップ力を培うという教育方針を取っている²。

そんなイギリスの学校教育では成績評価の一つとして、日本の中学卒業の時期に、GCSE と呼ばれる義務教育過程終了試験がある。この成績が大学入試まで影響するため、多くの教員・生徒がこの試験での成績を上げることに注力する重要な試験である。

これまで「シティズンシップ」「地理」についての教育学的研究³はされているが、これらの学習を通じて身に付けうる、まちづくりに役立つ力に関する研究は十分にされていない。そのため本論では、イギリス国内で重要視されている GCSE 試験の考察を通じて、地理教育で身に付けうる「まちづくり力」に関して、明らかにしていくことを目的とする。

2. 研究対象

分析に用いたのは、GCSE 地理対策の参考書⁴と、GCSE 地理の試験問題⁵である。参考書は、GCSE 制作会社でもある Pearson 出版の Geography REVISION GUIDE を用いた。GCSE は、Pearson 出版の Edexcel GCSE 地理 2015 年度版

の、Foundation Tier という一般的なレベルの、Unit1~3 の試験問題と Resource Booklet を分析に用いた。

3. イギリス地理参考書の分析

3-1. 分析項目

参考書を分析するにあたって、経済産業書が提出している「シティズンシップ教育宣言⁶」内のシティズンシップの定義と、シティズンシップを発揮するために必要な能力を確認した。(表 1) 三つの能力のうち、「意識」は能動的な学びの中で身につくものだと述べられているため、今回は「知識」と「スキル」について分析を行った。

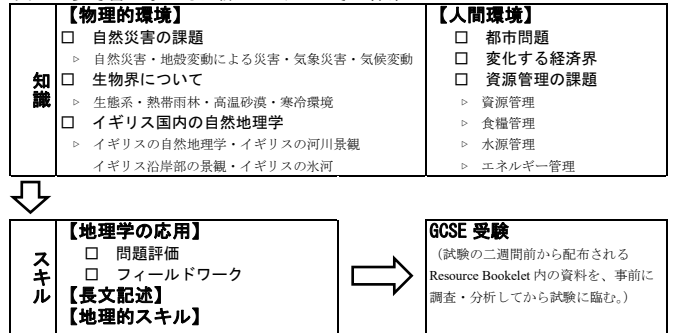
表 1 シティズンシップ力に関するまとめ

シティズンシップの定義	
多様な価値観や文化で構成される社会において、個人が自己を守り、自己実現を図るとともに、よりよい社会の実現に寄与するという目的のために、社会の意思決定や運営の過程において、個人としての権利と義務を行使し、多様なと積極的にかかわろうとする資質	
シティズンシップを発揮するために必要な能力	
意識	自分自身に関する意識/他者とのかかわりに関する意識/社会への参画に関する意識
知識	公的・社会的な分野での活動に必要な知識/政治分野での活動に必要な知識/経済分野での活動に必要な知識
スキル	自己・他者・社会の状態や関係性を客観的・批判的に認識・理解するためのスキル/情報や知識を効果的に収集し、正しく理解・判断するためのスキル/他者とともに社会の中で自分の意見を表明し、他人の意見を聞き、意思決定し、実行するためのスキル

3-2. 参考書の構成

参考書の構成として特徴的なのは、「知識」を学んだ後に、「スキル」を学ぶ点である。(図 1) また、「知識」では、地震災害に関する単元で地殻変動の仕組みを取り扱うなど、地学的な学びも含まれている点が特徴である。

図 1 参考書で学べる知識・スキルとその体系



3-3. スキルの内容

スキルは大きく「地理学の応用」「長文記述」「地理的スキル」の三種類に分けられる。(表2)この基本的な地理に関するスキルの習得が参考書全体の21%のページ数を占めている。これらのスキルをを身につけることで、基礎的な作業が間違いなくできるようになり、分析・加工のされていない一次情報を、自らの力で読み解く習慣の形成に繋がる。

また、社会の課題に対する評価の方法や、現地調査の方法等について丁寧な説明がされている点も、日本の教科書と異なる。更にフィールドワークを実施することが義務付けられており、データの収集、分析、考察についても学習内容として重要な位置付けにある。自らの力で社会を見るというシティズンシップ力の基本的な点を地理学を通して実践しようとする姿勢を読み取ることができる。参考書で学ぶスキルはGCSE本番でも、配点の高い問題を解くために必要となっている。暗記型の日本の地理教育とは違い、知識を活用し解く力が重要視されている。

表2 参考書から学ぶスキル

【地理学の応用】	【地理的スキル】
□問題評価 <ul style="list-style-type: none"> 問題評価の方法 現地調査の方法 情報の活用方法 □フィールドワーク <ul style="list-style-type: none"> データの見方 データの分析 分析の考察 	<ul style="list-style-type: none"> 地図帳と地図の使い方 地図とスケールの種類 グリッド参照と距離 断面図と起伏 地図の書き方 写真、図の使い方 グラフ(折れ線・棒・円・分布図) ピクトグラム、ヒストグラムの使い方 人口ピラミッド コロプレスマップの使い方 流線図 統計と分析
【長文記述】 <ul style="list-style-type: none"> 文章の書き方 結論の導き方 判断の仕方 	

4. GCSE 地理の分析

4-1. GCSE 地理の概要

次に、イギリス義務教育課程修了試験であるGCSEの設問分析を行った。GCSE地理では、Resource Bookletという資料集が試験二週間前に配布され、資料を調査・分析してから受験する。この調査・分析の方法も、Revision Guide内で「問題評価の方法」というスキルとして扱っている。このように、GCSEを通して、実際のまちづくりの場でも必要とされる「得られた情報を、自分が持つ知識とスキルを使い、解釈し、課題を解決する力」を身につけられるようになっている。

4-2. 問いの用語別類型の分析

試験問題の設問を、問いの用語類型別に分類し、問いごとの配点率を算出した。(表3)「Study」に次いで、「Discribe」「Outline」「Explain」という問いの配点率が高く、これらの質問が試験の中で重要視されていることを読み取ることができる。また、「Study」以外の三つの問い

は、全て記述式回答の問題である。この三つの問いが含まれる設問の配点割合が全体得点の43%を占めている。

これらの問いに共通するのは、自分の意見を根拠立てて説明するスキルが必要であることだ。これはRevision Guide内の、「長文記述」のスキルが該当する。こうした、スキルは、多様な市民と共働しなければいけない、まちづくりの場においても、自分の意見を提案に反映させるために必要な力である。

表3 問いの用語別類型と配点割合

質問	設問数	設問数割合	得点	配点割合	選択	穴埋め	記述
Study	55	35%	99	33%	34	5	16
Discribe	14	9%	45	15%	0	0	14
Outline	15	9%	44	14%	0	0	15
Explain	8	5%	44	14%	8	0	0
Complete	9	5%	33	11%	0	8	1
State	4	2%	12	4%	0	0	4
What	4	2%	4	1%	1	0	0
Suggest	3	1%	4	1%	0	0	3
Identify	2	1%	4	1%	0	0	2
Draw	1	0.6%	4	1%	0	0	1
Which	35	22%	2	0.6%	35	0	0
Find	2	1%	2	0.6%	2	0	0
Choose	1	0.6%	2	0.6%	1	0	0

配点割合が高かった「Discribe」「Outline」「Explain」の問いの一部を表4に示す。国や社会などの比較的大きな範囲の地域が抱えている問題について考える問いが多い。この問いに答えることも、他者とのかわりに関する意識や、社会への参画に関する意識を醸成するきっかけになっている。

表4 Discribe, Outline, Explainの質問内容

2004年から2012年の間に、アマゾンの森林破壊を食い止めるために、どのような政策が行われたか述べなさい。
再生可能エネルギーが環境に与える影響について説明しなさい。
貧困国の小さなコミュニティにおける水の供給のためにふさわしい技術はどのようなものか、例を用いて説明しなさい。
技術と運輸の発展が、世界中の人口移動をどのように増加させているかを説明しなさい。
社会的、経済的要因が、観光産業の発展をどのように引き起こしているかを説明しなさい。

5. まとめ

イギリスの地理教育には、三つのシティズンシップ力全てが含まれていた。中でも特に、スキルと、相手に自分の意見を説明する力が重要視されており、学習を通していつの間にかまちづくり力が培われる仕組みになっている。日本のような点差を付けるための暗記重視の試験よりも、スコアは9段階だが、一生使える力を身につけられる試験のための学習のほうが有意義であろう。

6. 主要参考文献

- 中央審議委員会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」文部科学省 中教審第197号(2016年12月21日)
- GOV.UK「The national curriculum」Government Digital Service : <https://www.gov.uk/national-curriculum> (閲覧日:2018年1月10日)
- 愛知県総合教育センター「シティズンシップ教育の視点でとらえ直す地理歴史科、公民科の授業の在り方に関する研究」愛知県総合教育センター 研究紀要 第99集(2009年)
- Pearson「REVESE AQA GCSE (9-1) Geography REVISION GUIDE」(2017年)
- Pearson Edexcel GCSE「Geography A Foundation Tier」(2015年)
- 経済産業省「シティズンシップ教育宣言」経済産業省経済産業政策局(2006年)